



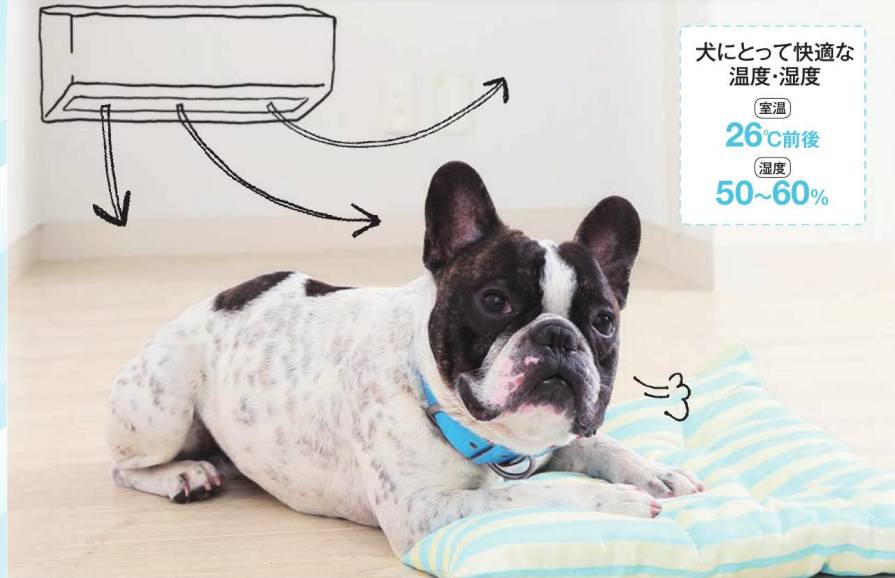
# 愛犬のための

# 熱中症予防対策

## 犬のいる部屋

クーラーは26℃を目安に設定

犬がいつもいる部屋は、犬にとって暑すぎたり、冷えすぎないようにクーラーで調整を。室温は26℃前後、湿度は50～60%を保ちましょう。飼い主さんの体感だけで室内温度を設定していると、犬には暑すぎて夏バテや熱中症を招く原因となるので注意を。



犬にとって快適な温度・湿度

室温 26℃前後  
湿度 50～60%

犬がいつもいる部屋はこうしてクールダウン!



NG

冷風が直接犬の体に当たらないように!



冷風の流りを調整!

クーラーの風が犬の体に直接当たらないように

クーラーの冷気が直接犬に当たり続けると、体がだるくなる。送風口のルーバーの向きを変えて、冷気が上下左右などさまざまな方向に流れるようにしましょう。

温湿度計でしっかり管理。犬の体高に合わせて調整を



犬は人よりも低い位置で過ごしています。同じ部屋でも高いところと低いところでは温度が異なるため、室内の温度と湿度は、犬の顔の位置あたりで測り、調整をしましょう。

扇風機も並行して使い、部屋の空気を循環させる



冷気は上から下へと下りてきます。そのため犬より低いところにいる犬にまともに冷気が当たり、冷えすぎること。クーラーと並行して扇風機を使い、部屋の中に冷気を循環させましょう。

## 夜、寝るとき

犬が好きなときに涼める場所を

飼い主さんによっては、比較的涼しい夜など、就寝時にクーラーをタイマーセットし、途中で切ってしまうこともあるかもしれません。ところが、人は快眠中でも、犬には暑く感じることも。そんなとき、部屋に保冷剤などを置いておくと、犬が自由に涼めます。

保冷剤を缶に入れ、タオルでくるむ

保冷剤はじかに置くと犬がかじる危険もあるので、お菓子の空き缶など金属製の缶に入れ、その缶をタオルでくるんで。



ひんやり...

『いぬのきもち』は、健康・しつけや関係性・お世話など、愛犬との暮らしがもっと充実する情報が満載の雑誌です。

※この記事は『いぬのきもち』2015年7月号を再編集しています。



雑誌とふろくを、毎月ご自宅にお届け!

いぬのきもち



# 留守番



サークルで留守番させる  
ときにも 飲み水は  
2カ所以上に用意  
サークル内でも水ボウルは2  
つ以上を用意。トイレから離れ  
たところに置きましょう。

**留守番 1**  
飲み水の器は、  
2カ所以上に  
置いておく  
出かける前に、飲み水は必ず新  
鮮なものに替えましょう。器は1  
つだけでは飲み干したり、こぼし  
たりする可能性があるため、必ず  
複数置いて。家の中で自由に過ご  
させるなら、廊下やほかの部屋に  
も置くこと。



## 留守番 2

### ペットボトル氷柱で いざというときに 備える

夏、犬を留守番させるときは、  
クーラーで室内温度・湿度を調整  
することが基本ですが、停電や故  
障でクーラーが切れてしまつ心配  
も。そんな事態に備えて、2Lの  
ペットボトルの水を冷凍庫で凍ら  
せた「氷柱」を部屋の中に置いて  
おきましょう。万が一のときも、  
氷柱の冷気で、犬が涼めます。

洗面器に入れた  
氷ブロックでもOK。  
とければ、冷たい飲み水にも  
洗面器に氷を入れておくのも、冷房  
代わりに。氷がとけると、飲み水にも  
なります。



ペットボトルの氷柱はトレーの上に置きます。そうすると、犬は氷柱の結露をなめたり、トレーにたまった水を飲んでクールダウンに



## 留守番 4

### 犬が自由に 行き来できる ようにする

犬をハウスに入らずに留守番さ  
せる場合、涼しく環境を整えた部  
屋以外にも、廊下や玄関などを犬  
が自由に行き来できるようにして  
おくこと。停電などでクーラーが  
停まり、部屋の温度が上がったと  
きや部屋が寒すぎるとき、犬が自  
ら場所を移動できるからです。た  
だし、犬が行き来する場所は、誤  
食などを防ぐために片づけておいて



## 留守番 3

### 部屋の中の 遮光や断熱も しっかりと

犬を留守番させる際は、日中  
も室内のカーテンを引いておき、  
室温の上昇を防ぎましょう。カー  
テンは、直射日光を通さない厚手  
のものを選び、とくに日当たりの  
よい窓には、必ず遮光・断熱タイ  
プのカーテンを。